

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	114人	社会	115人	数学	115人
	理科	115人	英語	114人		

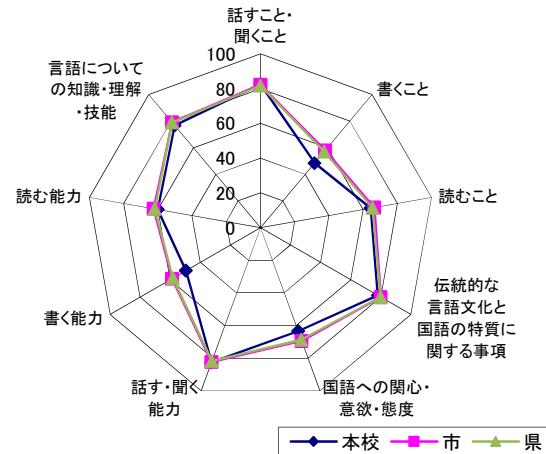
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.5	82.3	81.8
	書くこと	48.5	58.0	57.2
	読むこと	64.4	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.0	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	63.5	69.4	68.8
	話す・聞く能力	82.5	82.3	81.8
	書く能力	49.5	58.8	58.1
	読む能力	60.0	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	76.8	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

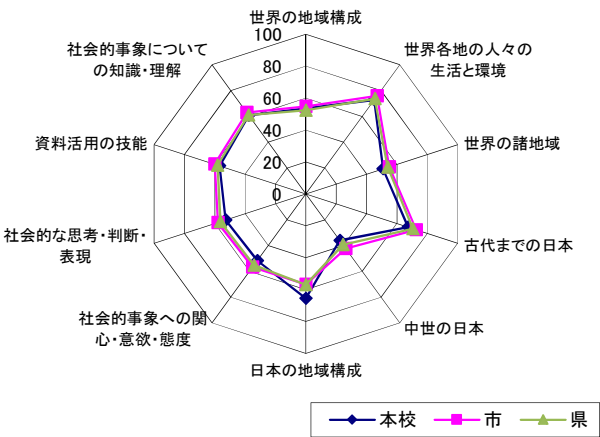
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市の平均より上回る状況である。 ○話すこと、聞くことに対する意欲と態度は身につく。 ●話すこと・話を聞くことのポイントのとらえ方が不十分である。	・意欲と態度が身に付きつつあることは良い傾向である。 「話す・聞く」の単元の指導を強化し、ポイントを絞ってわかりやすい授業を行う。 ・授業の中でスピーチを取り入れ、話題の提示から、自分の意見や考えを述べるパターンを指導していく。 ・聞くときにメモをとらせ、5W1Hを聞き取る基本的な学習内容を取り入れて指導を行う。
書くこと	●県、市の平均よりも低い状況である。 ●「作文が書けない」という意識が強く、パターンを学習しても「苦手だからできない」という生徒が多い。	・「書くこと」の単元の指導を強化し、さまざまな意見文の書き方のパターンを用いて、丁寧に指導を行う。具体的には、以下のように書くことの技術指導を行う。 ①構成を意識せずに、短い文を書かせ、書くことの抵抗を和らげる指導を行う。 ②「自分の考え 明確な根拠 まとめ」の3段落構成を基本として、構成を意識した文章を書かせる。 ③誰が読むのかという相手を意識した文章を書かせる。
読むこと	●県、市の平均よりも低い状況である。 ●説明的文章の読解が苦手な生徒が多く、無解答も多く見られる。 ●説明的文章の読解が苦手な生徒が多く、長文を読むだけで精一杯で、ポイントが絞れずにさらにわからなくなるといふ悪循環が起こっている。 ○小説などの読解は平均的である。	・文章読解のポイントを絞り、ドリル形式で授業に取り入れる工夫を行う。 ・内容を比べながら文章を読み、自分の意見や立場をはっきりさせた読み取りを授業で行う。その課程を積み重ねることにより、批判的読解力を育成する。 ・小説などの、心情を追うことは好きな生徒が多いので、伏線に気をつけて読み取らせるなど、テスト問題を意識した読み取り方も指導を強化する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●県、市の平均よりも低い状況である。 ●語彙力が低く、言葉を的確に使うことができない生徒が多く見られる。	・ほぼ毎日漢字ノートを課題とする小テストを実施しているので、さらに定着を確認するための定期的なテストを実施していく必要がある。 ・語彙力を高めるために、ことわざや慣用語、文法などの単元では、丁寧に指導を行い、個別指導にも力を入れていく。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	53.6	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	72.8	75.9	73.7
	世界の諸地域	50.7	54.8	53.9
	古代までの日本	67.3	72.7	70.5
	中世の日本	36.1	42.4	39.3
	日本の地域構成	65.4	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	51.7	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	52.9	58.1	56.4
	資料活用・技能	56.9	60.1	58.2
	社会的な事象についての知識・理解	60.9	62.9	61.1



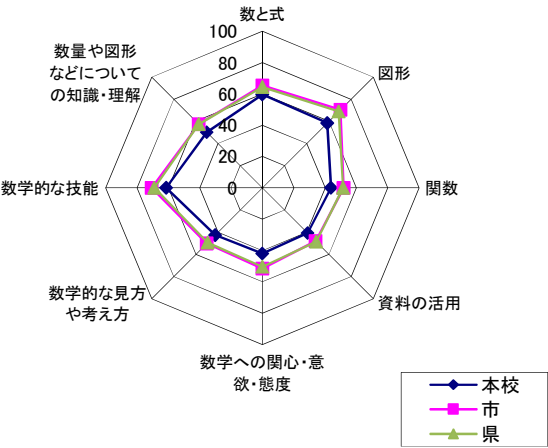
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○この分野の正答率は、市平均よりやや下回っているが、県平均を上回っている良好である。 ○正距方位図法から方位を読み取る問題の正答率は、県平均を上回り、良好である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図やグラフ、資料の読み取り方のポイントを、授業で丁寧に指導する。 ・緯度や経度については、地図帳を効果的に使い、地図に触れる機会を増やすなどして、基本的な理解を高める。
世界各地の人々の生活と環境	●この分野の正答率は、県平均・市平均より下回っていて課題が残る。 ○オアシスについての問題の正答率は、県平均を大幅に上回り、良好である。 ●複数の資料から冷帯の暮らしを考察する問題の正答率が、県平均を大幅に下回っている。資料を活用して考える力が不足している。	・地図やグラフ、資料の読み取り方については、既習事項を生かして考えるように、授業で意識して指導する。 ・宗教分布や気候帯の雨温図の特徴については、地図と関連させて読み取ることが大切になるので、読み取るポイントを授業で教えるなどして、グラフや地図を活用する力を育てる。
世界の諸地域	●この分野の正答率は、県平均・市平均より下回っていて課題が残る。 ●資料をもとに経済格差について判断、考察する問題の正答率が県平均を下回っている。資料を活用して考える力が不足している。 ●国が抱える課題について資料を基に考察し、文として表現する問題の正答率が、県平均を大幅に下回っている。資料を活用して考える力やそれを文として記述する力が不足している。	・複数の資料の読み取り方については、授業の導入で身近な社会に関する話題を取り入れるなどして、一般的な教養や知識を広げる。 ・調べ学習や問題解決学習を効果的に行うことで、資料を活用する能力を育てていく。 ・自分の考えを文にしてまとめる活動を増やすことで表現力を伸ばしていく。
古代までの日本	●この分野の正答率は、県平均・市平均より下回っていて課題が残る。特に飛鳥時代から平安時代までの正答率が低い。 ●古代文明のおこりや国風文化についての問題の正答率は、県平均を下回っている。 ●奈良時代の人々の負担や古代日本と周辺の国々との関わりについて、複数の資料をもとに考察する問題の正答率が、県平均を大幅に下回っている。複数の資料を関連づけて活用する力が不足している。 ●シルクロードを通じた東西交流について複数の資料をもとに考察し、記述する問題の正答率が、県平均を大幅に下回っている。資料を活用して考える力やそれを文として記述する力が不足している。	・前回の授業で学習した内容の復習を毎時間行うことで、基礎的基本的な知識の定着を図ることは、今後も継続する。 ・資料から既習事項を生かして考えるために、思考するポイントを教える授業を効果的に実施することで、資料を活用して思考する問題に対応する学力を伸ばしていく。 ・資料から思考する問題に対応するためには、読解力や表現力も必要になるので、自分の考えを記述させる授業を実践する。
中世の日本	●この分野の正答率は、県平均・市平均より下回っていて課題が残る。 ●御恩と奉公について資料をもとに考察する問題の正答率は、県平均を大幅に下回っている。資料を活用して考える力が不足している。	・年表を活用する習慣を付けさせることで、海外との関係や歴史の流れをつかめるようにする。 ・資料から思考する問題に対応するためには、読解力や表現力も必要になるので、自分の考えを記述させる授業を実践する。
日本の地域構成	○この分野の正答率は、県平均・市平均を共に大きく上回っており、大変良好である。 ○日本の領域や排他的経済水域、標準時子午線についての問題の正答率は、県平均を大幅に上回り、大変良好である。	・地図やグラフ、資料の読み取り方のポイントを、授業で丁寧に指導する。 ・都道府県や日本の領域、領土問題などでは、地図帳を効果的に使い、地図に触れる機会を増やすなどして、基本的な理解を高める。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	59.6	65.4	64.4
	図形	58.6	70.5	69.0
	関数	43.8	51.9	51.5
	資料の活用	40.7	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	41.9	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	42.7	50.2	49.4
	数学的な技能	61.5	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	50.3	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

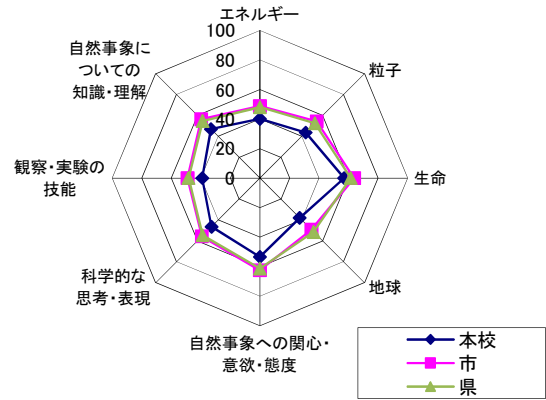
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率について、県や市の平均と比べると下回っている。 ○正負の数、文字式の計算力が身につけている。 ●1次方程式を解く計算力に課題が見られる。 ●文字を使った式で数量を表したり、その関係を等式に表したりする問題に課題が見られる。	・1次方程式や連立方程式の計算演習を繰り返し行い、計算力を定着させる。 ・立式の手順を考え、その手順を考察する活動を取り入れる。また、意図した結果が得られなかった場合には、どこを修正すればよいかを振り返らせる。
図形	平均正答率について、県や市の平均と比べると下回っている。 ○平面図形を回転させてできる立体について理解している。 ●おうぎ形の面積を求める問題に課題が見られる。	・身近な立体を見たり、実際に触れたりしながら、様々な方向や視点から空間図形を観察し、辺や面の位置関係を理解できるようにさせる。 ・おうぎ形の問題について、割合に関する理解を学び直す機会を設ける。また、分数を含んだ方程式を利用するため、その計算力を身につけさせる。
関数	平均正答率について、県や市の平均と比べると下回っている。 ○反比例の関係を表す表から、反比例の式を表すことができる。 ●比例の関係を表す式から、比例のグラフをかく問題に課題が見られる。	・表、式、グラフの対応関係を復習し、それぞれの有用性を実感させ、理解を深めさせる。 ・文字に数値を代入する問題について、基礎計算力を身につけさせる。
資料の活用	平均正答率について、県や市の平均と比べると下回っている。 ○累積度数や資料の範囲の意味を理解している。 ●相対度数や最頻値の理解について課題が見られる。	・資料から読み取った様子を自分の言葉で表現する活動を増やし、思考力と表現力を育む。 ・用語の理解を十分に定着させるために、確認テストなどを行う時間を確保する。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	40.1	48.8	48.1
	粒子	43.7	54.4	52.6
	生命	57.0	63.7	61.5
	地球	38.0	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	53.3	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	46.4	55.7	54.8
	観察・実験の技能	39.1	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	47.0	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

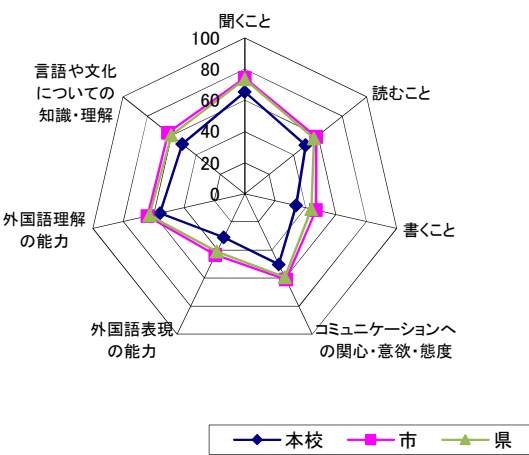
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	市や県と比較して平均正答率が下回っている。 ○音の性質についての理解ができている。 ●光の性質や作図の問題の正答率が低く、特に作図が課題と見られた。	・興味を持たせて実験を行わせ、結果を考察する時間を確保する。 ・問題集を活用して、繰り返し作図を行い、定着させる。作図につまずいている生徒には助言を行う。
粒子	市や県と比較して平均正答率が下回っている。 ●密度や濃度を求める問題の正答率が低く、計算力に課題が見られた。 ●気体の性質について理解が不十分で、実験の操作に関する問題の正答率が低く、無回答も多く見られた。	・授業で計算問題を行う時間を確保し、計画的に小テストを行い、計算力を身につけさせる。 ・様々な物質の特徴を押さえて、整理して定着させる。 ・実験時に操作の注意事項をしっかりと確認させる。
生命	市や県と比較して平均正答率が下回っている。 ○動物の分類について理解できている。 ○顕微鏡の使い方についての正答率が高かった。 ●植物の分類についての正答率が低かった。	・図や表を活用して、整理して理解させる。 ・問題集を繰り返し行い、定着を図る。 ・生徒が植物や動物に興味を持てるように工夫し、生徒の探究心を高める。
地球	市や県と比較して平均正答率が下回っている。 ○地層の特徴から、当時の環境を推測する問題の正答率が高かった。 ●堆積岩や化石についての問題の正答率が低かった。	・語句とその意味を覚えるだけでなく、関連事項についてもきちんと整理できるように指導する。 ・学習した語句を用いて説明をする時間を設定する。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	65.4	74.4	73.5
	読むこと	50.0	58.7	56.9
	書くこと	33.7	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	50.3	61.0	59.4
	外国語表現の能力	31.1	43.5	41.1
	外国語理解の能力	55.8	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	51.3	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	正答率において、本市値を9.0、県値を8.1、それぞれ下回った。また、前年度校内値と比較し、5.3下回った。 ○「絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(動作と場所)」「英文の要点を聞き取ることができる。」では、県正答率と同等の値となった。 ●「対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。(いくつ持っているかとたずねられて)(何をしたかとたずねられて)」では、県正答率と比較し、10ポイント以上下回った。	・「聞くこと」に関する本校生徒の関心・意欲は高く、普段の学習活動における設問への反応や回答率は高い。しかし、聞き慣れない声の調子や話す速度に関する苦手意識が強く、力を発揮することができない。 ・今後の指導においては、インタラクティブなやり取りを一層多くし、多様な場面や話題を提示することができるよう工夫していく。また、場面や話題に、自分の情報を載せることで、相手の興味・関心を引き出しながら、やり取りを継続させていくことができるよう、学習活動を工夫する。
読むこと	正答率において、本市値を8.7、県値を6.9、それぞれ下回った。また、前年度校内値と比較し、9.1下回った。 ○「対話の流れと資料から、適切な語を判断することができる。」「メールの内容を把握することができる。」では、県正答率と同等の値となった。 ●「英文の情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことができる。」では、県正答率を10ポイント以上下回り、「語形・語法を理解することができる。(現在進行形の疑問文)」では20ポイント以上下回った。	・「読むこと」に関して、本校生徒は苦手と感じている。語彙力が十分でなく、文中にある多くの単語の意味が分からないため、それらをつづつ調べ、丁寧に読み進めることを、手間と感じてしまう。 ・今後の指導においては、情報機器を活用し(紙のワークシートでは、情報量に限りがある)、単語の「意味」「読み」に関する情報を十分に与えながら、「読むこと」への苦手意識を薄められるよう工夫する。また、「読みたくなる」教材の開発・提供にも努めていく。
書くこと	正答率において、本市値を13.1、県値を10.2、それぞれ下回った。また、前年度校内値と比較し、10.3下回った。 ○「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。」では、県正答率と同等の値となった。 ●10の設問中、9の設問で県平均を下回り、それらのうち5の設問では、10ポイント以上下回った。特に「自分の出身地について、まとまった内容で説明する文を書き表すことができる。」の3問では、平均14ポイント以上下回った。	・「書くこと」に関して、本校生徒の意欲は高く、学習活動においても「書こう」とする姿勢は顕著にみられる。しかし、「読むこと」同様に、使える語彙が十分でなく、思う通りに表現できないもどかしさを感じている。 ・今後の指導においては、まず基本文を用い、自分の情報に置き換える活動からやり直す。次に、情報機器(翻訳機能)を活用し、「英語に直せる」楽しさを味わうことができるようにする。同時に、日頃から自分自身を見つめ、自分に関することを発信するための材料を、多く蓄積しておくよう助言する。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合も含む)で勉強をしています。72.4%(県:68.7, 市:67.4)」学習塾や家庭教師を活用して勉強をしている生徒の割合が多いことが分かる。

○「1か月に、何冊くらい本を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)。11冊以上12.1%(県:6.3, 市:6.3), 1～2冊50.0%(県45.0%, 市46.6%)」読書に親しんでいる様子が分かる。今後も、朝の読書の時間を充実させ、学級文庫の活用をすすめていきたい。

○「家の人と学校のできごとについて話をしている。84.5%(県79.9%, 市81.0%)」家族との関係が良好であることがわかる。

○「先生は学習のことについてほめてくれる。82.8%(県:77.6, 市:81.1)」先生方への信頼度が高く、関係がよいことがうかがえる。授業などを通して、生徒の良いところを認め励ます取り組みを継続したい。

○「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。70.7%(県:67.7, 市:68.2)」今後も、学習活動に新しい用語などを調べる活動を多く取り入れすことで、生徒の知りたい、調べたい、わかりたい意欲を育んでいく。

●「家で、学校の宿題をしている。81.8%(県92.8, 市93.2)」家で学校の授業の予習をしている。29.3%(県:44.8, 市49.3)」自分は勉強がよくできる方だと思う。22.4%(県:30.2, 市:31.5)」家で学校の宿題や授業の予習をすることで、授業に自信をもって取り組めるようにし、自分は勉強ができると自信がもてるように指導を工夫していく。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う。48.2%(県:61.7, 市:63.4)」学級の係や委員会活動などでクラスのために活動したことを褒めるなど、自分はクラスの人役に立っていると実感がもてるように声掛けをしていく。

●「毎日、朝食を食べている。89.7%(県:93.4, 市:94.0)」毎日、同じくらいの時刻に寝ている。65.0%(県:82.2, 市:82.4)」早寝、早起きを心がけている。61.2%(県:69.3, 市:71.9)」「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。4時間以上:20.7%(県:12.7, 市:12.2), 3時間以上 16.4%(県:11.9, 市:11.0)」保護者会や学年だより、朝の会や帰りの会を利用した担任からの話などを通して、朝食の大切さや、規則正しい生活を心がけることの必要性を伝え、よりよい生活を送れるよう意欲付けを行っていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
(1)『わかる授業』のより一層の推進	①「本時の目標(めあて、ねらい)」の確実な提示	●授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている。93.1%(令和元年度の本校98.5%よりも5.4ポイント低い。)・(県96.5% 宇都宮市95.9%)
	②生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫	●クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。78.4%(令和元年度の本校85%よりも7.7ポイント低い。)・(県86.7% 宇都宮市86.1%)
	③話し合い活動の積極的な導入	○授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。92.2%(令和元年度の本校97.2%よりも5.0ポイント低い。)・(県92.0% 宇都宮市90.3%)

	④「ふりかえり」活動の徹底	●授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。87.0%(令和元年度の本校93.6%よりも6.6ポイント低い。 ・(県79.9% 宇都宮市80.1%)
(2)家庭学習のより一層の充実	①学習に対する家庭の関心を高める工夫	●家の人と学習について話している。79.4%(令和元年度の本校90.7%よりも11.3ポイント低い。 ・(県79.2% 宇都宮市84.1%)
	②自主学習ノートの活用の充実化、点検、アドバイス、賞賛	●家で、学校の授業の予習をしている。29.3%(令和元年度の本校69.3%よりも40ポイント低い。 ・(県44.8% 宇都宮市49.3%) ●家で、学校の授業の復習をしている。74.2%(令和元年度の本校89.3%よりも15.1ポイント低い。 ・(県74.5% 宇都宮市75.1%) ●家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。69.8%(令和元年度の本校77.1%よりも7.3ポイント低い。 ・(県70.1% 宇都宮市72.2%)
	③家庭学習の充実	●家の人と学習について話をしている。79.4%(令和元年度の本校90.7%よりも11.3ポイント低い。 ・(県79.2% 宇都宮市84.1%) ●家で、学校の宿題をしている。81.8%(令和元年度の本校97.2%よりも15.4ポイント低い。 ・(県92.8% 宇都宮市93.2%) ●家で、計画を立てて勉強をしている。54.3%(令和元年度の本校77.8%よりも23.5ポイント低い。 ・(県65.7% 宇都宮市66.4%)

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
(1)『わかる授業』のより一層の推進に向けて		
①「本時の目標(めあて、ねらい)」の提示を 95%以上にし、習慣化を図る。	①「本時の目標(めあて、ねらい)」の確実な提示	①毎時間の学習課題に即した「本時の目標(めあて、ねらい)」の提示を、毎時間、確実に行う。
②授業で使うノートの効果的な活用を図り、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめが書かれている生徒の割合を90%以上にする。	②効果的なノートの活用	②-1 教科担任によるノートの確認などを通して、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書かせる指導を充実させる。 ②-2 教科担任による板書の工夫と、学習の定着を図った効果的なノートの活用法の指導を充実させる。
③授業における、生徒同志の話し合い活動の更なる充実を図る。	③話し合い活動の積極的な導入	③各教科担任による授業中の話し合い活動の充実だけでなく、学級担任による学級活動の活性化も図る。
④生徒間の話し合い活動をより一層充実させ、考えを深めさせたり、広げたりすることができている生徒の割合を85%以上にする。	④生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫	④教科担任による教材研究の充実と、「一人一授業」の公開による教師間の学びあいを通じた、授業力の向上を図る。
⑤学習内容の振り返りを習慣化させる。	⑤「ふりかえり」活動の徹底	⑤ワークシートやまとめのテスト、自己評価などを活用して、学習のねらいに即した振り返りを確実に実施する。

(2)家庭学習のより一層の充実に向けて		
①家の人と学習について話をしている生徒の割合を85%以上にする。	①学習に対する家庭の関心を高める工夫	①三者懇談, 教育相談, 学校だより, 学級だよりなどを活用した学習に関する情報提供を充実させる。
②予習, 復習などの計画的な家庭学習を, より一層充実させる。	②自主学習ノートの点検, アドバイス, 賞賛	②-1 学級担任による, 家庭学習の内容の点検と, コメントの記入等による助言を行い, 誉める指導を充実させる。 ②-2 優れたノートの学年の廊下への掲示と, 小学校への紹介を行い, 実践例の紹介を通して, 自主学習ノートの活用と工夫を促す。
③「家で, テストで間違えた問題について勉強をしている」生徒の割合を更に増加させ, 学習内容の効果的な定着を図った復習を実施させる。	③家庭学習の仕方を明示, 説明	③-1 教科担任からの復習方法の助言と個に応じた指導を充実させる。 ③-2 本校独自の「家庭学習の手引き」を活用し, 保護者にも家庭学習の方法を紹介して, 家庭学習の充実を促す。